

小学校第2学年 国語科学習指導案

日 時：令和元年6月25日（火）2校時

指導者：教育センター所員 北村 里恵

1 単元名

こころにのこったできごとがつたわるように書こう

教材名「じゅんじょよく書こう」（東京書籍 2年上）

2 単元について

（1）単元観

本単元の指導事項は、現行学習指導要領「B 書くこと」の「イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」である。これは、新学習指導要領では、「イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」に相当する。また、知識及び技能「（1）言葉の特徴や使い方に関する事項」で示されている「オ 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること」や、「（2）情報の扱い方に関する事項」で示されている「ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解すること」にも関連する。

教材「じゅんじょよく書こう」（東京書籍2年上）は、心に残った出来事を題材として、順序に気を付けて構成を考え、様子がよく分かるように詳しく文章に書く学習である。教科書には、一連の学習過程が示されており、文章を書く学習の流れを見通しながら、学習を進めることができる。また、簡単な構成メモの書き方やモデル文も例示されており、具体的な学習活動やゴールの姿の参考となる。

本単元では、思考力、判断力、表現力等「B書くこと」で示されている学習過程「〈題材の設定〉〈情報の収集〉〈内容の検討〉〈構成の検討〉〈考えの形成、記述〉〈推敲〉〈共有〉」に沿って指導を行うが、〈構成の検討〉に重点を置く。また、事物や体験したことを表す言葉を中心に、身近なことを表す語句を文章の中で使う機会を通して、児童が自分の語彙として身に付けさせる。事柄の順序を考えたり、事物や体験したことを表す言葉を使ったりすることが、分かりやすい文章になることに気付くことができるようにしたい。

（2）児童観

本学級の児童は、これまでに、観察したことを伝える文章を書く学習を行ってきた。順序を表す言葉を意識して文章を書くことは、本単元が初めてとなる。

本学級の児童に、国語科の書くことに関するアンケート調査を行った。読書感想文などの作文を書くことが好きではない児童が半数程度、日記を書くことが好きではない児童が学級全体の3分の1程度であった。作文や日記を書くことが好きではない理由としては、「書くことが面倒だから」「何を書いてよいか分からないから」「長い文章を書くことが嫌だから」などがあった。「何を書いてよいか分からない」の理由から、書くことを見付けたり、自分の考えを明確にして、書き表し方を工夫したりすることに難しさを感じていると考えられる。その一方で、ほぼ全員の児童が、作文や日記を今よりも書けるようになりたいと思っていることが分かった。このような児童の実態を踏まえ、書くことへの意欲をもたせて書くことを見付けたり、自分の考えを明確にして書き表し方を工夫したりすることができるような手立てを考えていきたい。

（3）指導観

自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができるようにするために、次の手立てを取りながら指導を行う。

第一次では、児童が自分も書いてみたいという気持ちを喚起する。そのために、まず、教師が4月か

らの出来事で心に残っていることを紹介する。はじめに、写真を見せて紹介する。写真は、そのときの様子や人物の表情が伝わりやすいことに気付くであろう。次に、「日曜日に遊びました。」の1文のみを提示する。1文のみだと、写真と比べてそのときの様子や気持ちが伝わりにくいことに気付かせる。その上で、文で相手にそのときの様子や気持ちを伝えることはできないのかと児童に投げ掛け、教師の提示した1文のみの出来事が、読み手に伝わるようにするためにはどうすればよいのかを考えていくことを伝え、意欲を高める。また、児童には、4月からの出来事で心に残っていることを文章に書き友達に紹介する活動を行うことを伝え、課題意識をもたせる。さらに、読み手に伝わる文章を書くためには、どのような活動が必要なのかについて、これまでの書くことの学習を想起しながら学習計画を立てせることで、見通しをもたせる。

第二次では、「〈題材の設定〉〈情報の収集〉〈内容の検討〉〈構成の検討〉〈考えの形成、記述〉〈推敲〉〈共有〉」の学習過程に沿って学習を行う。まず、第一次で提示した1文のみの出来事を読み手に伝わる文章にするための工夫を見付け、次に、見付けた工夫を使って自分の文章を書くようにする。「工夫を見付ける」「見付けた工夫を使って書く」の手順を繰り返すことで、書く力の習得を図るようにする。そして、読み手に伝わる文章を書くために、次のことを重点的に行う。本単元の指導事項である「自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」が身に付くようにするために、教科書の例文を基に、順序を表す言葉を使うことよさに気付かせ、自分の文章にも生かすことができるようにする。また、〈構成の検討〉では、「始め—中—終わり」に分けてメモを書くことができる構成メモを使い、構成を意識できるようにする。様子を詳しくする言葉を知り、使うことができるようにするために、教科書の例文を基に、メモから文章に書き換えたときに増えている言葉や文に着目させるようにする。増えている言葉や文が、見たことや聞いたこと、気持ちや会話など、そのときの様子が詳しく分かるものであることに気付かせる。さらに、様子を詳しくする言葉を知り、活用することができるように、気持ちを表す言葉や様子を詳しくする言葉をまとめたカード（「言葉のヒントカード」）を児童に配付する。「言葉のヒントカード」の言葉を使って自分の文を詳しくする活動を通して、語彙を豊かにさせていきたい。〈推敲〉では、まず声に出して読ませる。また、推敲の観点を、本単元で身に付けさせたい力である「順序を表す言葉を使うことができているか」「様子を詳しくする言葉を使うことができているか」の2つに設定することで、児童に本単元で身に付けさせたい力を意識させながら、自分の文章、友達の文章がその観点を基に書くことができているかの確認をすることができるようにする。

第三次では、完成した文章を読み合う活動を設定する。友達の書いた文章を読み、心に残った出来事が伝わったか、見付けた表現の工夫を使うことができたかについて、よかったところを伝え合うことで、お互いの文章を認め合う時間にしていく。

以上のような学習を通して、児童が、順序を表す言葉や様子を詳しくする言葉を使って文章を書くことができたという達成感を感じ、それらの言葉を今後の文章や日記を書く際に活用することができるようにしたい。

3 単元目標

簡単な構成を考えたり文を詳しくする言葉を使ったりして、心に残った出来事を伝える文章を書くことができる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
① 心に残った出来事を友達に伝えたいという思いを膨らませ、読み手に伝わる文章を書こうとしている。	① 経験したことから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めている（ア）。 ② 心に残った事柄が伝わるように、事	① 言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて文や文章を書いている（イ（ア））。

	柄の順序に気を付けて、文章の簡単な構成を考えている(イ)。 ③ 心に残った事柄が伝わるように、順序を表す言葉や、様子を詳しくする言葉を用いて書いている(ウ)。 ④ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合っている(オ)。	(新学習指導要領) ○経験したことを伝えるために、身近なことを表す語句を使い、文や文章を書いている((1)オ)。 ○メモを基に、事柄の順序を考えて文や文章を書いている((2)ア)。
--	---	--

5 単元の指導と評価の計画 (全 10 時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (【】) 評価方法 (〔〕)
一	1	○教師が心に残った出来事を紹介し、読み手に伝わる文章を書くという学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> はじめに、写真のみを提示し、見るだけで出来事の大体が分かることに気付かせる。 次に、「日曜日に遊びました。」の1文のみを提示し、その時の様子や気持ちが伝わりにくいことに気付かせ、文では伝えることができないのかを投げ掛け、学習課題につなげるようにする。 	【関】 心に残った出来事を友達に伝えたいという思いを膨らませている。 〔学習態度の観察〕
		学習課題 心に残った出来事が伝わるように、「順序よく書く」「様子を詳しく書く」学習をします。「りえちゃん」の文章から見つけた工夫を使って、友達に紹介する文章を書きます。		
		○学習計画を立てる。 ○心に残った出来事を思い出し、伝えたいことを決める。 〈題材の設定〉	<ul style="list-style-type: none"> 心に残った出来事を友達に伝える活動を行うことを伝え、意欲を高める。 学習のゴールを具体的にイメージすることができるように、教科書 p.88 の「竹田さんの文しょう」を提示する。 	【書】 ①経験したことから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めている。 〔ワークシートの記述の分析〕 〔学習態度の観察〕
	2		<ul style="list-style-type: none"> 前時に示した学習課題を確認し、書くことでは、これまでどのような学習をしてきたかを想起させながら学習計画を立てさせる。 4月からの家庭や学校行事、学級などでの出来事をいくつか取り上げ、児童が題材を決める参考になるものを提示する。 	

二	3 4	○伝えたい出来事について思い出し、「はじめ」「中」「終わり」の順にメモに書き出す。 〈情報の収集〉	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつことができるように、構成メモの「はじめ」「中」「終わり」に書く内容を説明する。 ・構成メモの使い方を理解できるように、「りえちゃんの文」を基に、構成メモの作成の仕方を確認する。 ・「中」に書くメモは、事柄の順序にとらわれず、思い出したらその都度書き込んでよいことを伝える。 ・書いたメモを基に、児童が互いに質問をする時間を取り、メモを増やすことができるようにする。 	<p>【書】②心に残った事柄が伝わるように、事柄の順序に気を付けて、文章の簡単な構成を考えている。</p> <p>[ワークシートの記述の分析]</p>
	5	○「中」のメモを整理する。 〈内容の検討〉 〈構成の検討〉	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成した「りえちゃんの構成メモ」から、必要なメモを選び、並べ替えたものを提示する。どのメモを選び、どのような意図や順序で並べ替えているのかを考えさせる。 ・児童が自分で必要なメモを選ぶことができるようにするために、教師の整理したメモを参考にさせる。 	<p>【書】②心に残った事柄が伝わるように、事柄の順序に気を付けて、文章の簡単な構成を考えている。</p> <p>[ワークシートの記述の分析]</p> <p>[学習態度の観察]</p>
本時	6	○読み手に伝わる文章の書き方を知る。 〈考えの形成、記述〉	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成したメモを基に、読み手に伝わる文章を書くことを確認する。 ・「竹田さんのメモ」と「竹田さんの文しょう」の「中」の部分比べ、メモから文章にしたときに、どのような言葉や文が増えているのかを考えさせる。 ・見つけた表現の工夫を使って、りえちゃんのメモの一つを読み手に伝わる文章にする活動を行わせることで、見つけた表現の工夫を活用することができるようにする。 	<p>【書】③心に残った事柄が伝わるように、順序を表す言葉や、様子を詳しくする言葉を用いて書いている。</p> <p>[ワークシートの記述の分析]</p> <p>[学習態度の観察]</p>
	7	○読み手に伝わる文章の書き方を使って文章を書く。 〈考えの形成、記述〉	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学んだ「順序を表す言葉を使う」「様子を詳しくする言葉を使う」を基に、自分の構成メモを文章にしていく。 ・前時に使用したワークシートと同様の形式を準備し、前時の学習を基に自分で書き進めることができるようにする。 ・これまでの学習で出てきた言葉や、「言葉のヒントカード」などを参考にさせる。 	<p>【言】①心に残った出来事を友達に伝えたいという思いを膨らませ、読み手に伝わる文章を書こうとしている。</p> <p>[ワークシートの記述の分析]</p> <p>[学習態度の観察]</p> <p>【言】言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて文や文章を書く</p>

				<p>いている。</p> <p>[ワークシートの記述の分析]</p>
	8 9	<p>○書いた文章を読み返して推敲する。</p> <p>○推敲した文章を基に、清書する。</p> <p>〈推敲〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推敲の仕方や手順を確認する。 ・示した観点に沿って下書きの見直しをさせ、不十分な点は、教師が説明を加える。 ・読み手である友達が読むことを意識させ、文字を丁寧に書かせる。 	<p>【書】①心に残った出来事を友達に伝えたいという思いを膨らませ、読み手に伝わる文章を書こうとしている。</p> <p>[ワークシートの記述の分析]</p> <p>[学習態度の観察]</p> <p>【書】③心に残った事柄が伝わるように、順序を表す言葉や、様子を詳しくする言葉を用いて書いている。</p> <p>[ワークシートの記述の分析]</p>
三	10	<p>○書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>〈共有〉</p> <p>○本単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の書いた文章を読み、よい点や感想を伝える時間を取り、本単元の学びを実感できるようにする。 ・これまでの学習を振り返り、学習したことをまとめさせる。 	<p>【書】④書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合っている。</p> <p>[ワークシートの記述の分析]</p> <p>[学習態度の観察]</p>

6 本時の目標

心に残った事柄が伝わるように、順序を表す言葉や、様子を詳しくする言葉を用いて書くことができる。

7 指導の視点

児童に書く力を付けるために、教師が提示した資料を基に、読み手に伝わる文章にするための工夫を考えさせる手立ては有効であったか。

8 本時の展開 (6/10)

	学習活動 予想される児童の反応 ()	指導上の留意点及び支援 (○) と評価 (◆)
導入	1 本時のめあてを確かめる。	○本時では、メモを基に、読み手に伝わる文章を書くために気を付けることを見付けていくことを確認し、学習の見通しをもたせる。
	友だちにつたわる文しょうを書くために気をつけることを見つけ、文を書こう	
展開	2 教科書 p. 87 の「竹田さんのメモ」と、p. 88 の「竹田さんの文しょう」の「中」の部分段落ごとに比べながら読み、表現の工夫を見付ける。 (1)先生と一緒に考える。 (2)自分で考える。 (3)友達と考える。 (表現の工夫を見付ける手順) ①メモと文を比べて、同じところに印を付ける。 ②印を付けていないところは、どのような言葉や文なのかを考える。 ・「はじめに」「つぎに」「それから」「そのあとで」という言葉がある。 ・「あじみさせて。」「あついから気をつけてね。」のように話している言葉がある。 ・「ジュージュー」「たくさん」などの言葉がある。 ・「おいしかった」と、気持ちを表す言葉がある。 ・印を付けたところを詳しくしている。	○「竹田さんのメモ」と「竹田さんの文しょう」の「中」の部分段落ごとに比べ、メモから文章にする際に、増えている言葉や文がどのような内容なのかを考えさせる。 ○1つ目のメモと段落は教師が手順や比べて読むときに気を付けることなどを示しながら一緒に取り組み、2つ目のメモと段落は児童が自分で取り組み、3つ目のメモと段落はペアで取り組む。段階を踏んで活動を行うことで、児童が活動の手順や比べて読むときに気を付けることなどを理解しながら進めることができるようにする。 ○メモから増えている言葉や文の内容から、読み手に伝わる文章にするためには、順序を表す言葉を使ったり、したことや見たこと、気持ちや会話文などといった様子を詳しくする言葉を使ったりするとよいことに気付かせる。
展開	3 見付けた表現の工夫を使って、りえちゃんのメモの1つを文にする。	○教師が提示したメモの1つを、読み手に伝わる文章にする活動を行い、表現の工夫を活用させる (◆)。 ○読み手に伝わる文章を書くために、メモの内容について詳しく知りたいことを教師へ質問するように促す。 ○児童からの質問に答える際は、見付けた表現の工夫を使って答えるようにし、児童が文を書くときの表現の工夫に生かすことができるようにする。 ○質問を基に分かったことは、黒板に書き、文を書くときの参考となるようにする。 ○様子を詳しくする言葉のヒントとして、「言葉のヒントカード」を提示し、表現の工夫の参考とさせる。 ○児童が書いた文をいくつか紹介し、見付けた表現の工夫のどれを使って書いているのかについて考えさせる。

	4 読み手に伝わる文章にするために気を付けることをまとめる。 ・順序を表す言葉を使うと分かりやすい。 ・詳しくする言葉を使うと分かりやすい。 ○会話文（話したこと） ○したこと ○見たこと ○聞いたこと ○気持ち	○書くときに気を付けることを、児童の発言を基にまとめるようにし、本時の学びを実感することができるようにする。
終末	5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	○次時は、本時で見付けた表現の工夫を使って、自分のメモを文章にしていくことを伝える。

9 本時の評価規準と判定基準

(◆) 評価規準	心に残った事柄が伝わるように、順序を表す言葉や、様子を詳しくする言葉を用いて書いている。【書】		
判断する基準	十分満足できる状況 (A)	おおむね達成できる状況 (B)	努力を要する状況の児童への支援 (C)
	順序を表す言葉と、詳しくする言葉を両方使って書いている。	順序を表す言葉、または詳しくする言葉のどちらかを使って書いている。	→「竹田さんの文しょう」で見付けた表現の工夫の言葉や、「言葉のヒントカード」の言葉をいくつか取り上げ、どの言葉を使うのかを選ぶことができるようにする。
評価の方法	ワークシートの記述の分析、学習態度の観察		